

2005 年日本建築学会技術部門設計競技 「自然光を楽しむ近未来建築」

建築は元来、自然から人間の身を守るシェルターとしての機能を担っている。暑い夏には涼しさを、寒い冬には暖かさを、暗い夜には明るさを求め、自然環境を断絶する方向で快適な人工環境が求められてきた。そして、廃熱・廃 CO₂・廃ゴミは環境の自然処理能力を超え始め、化石エネルギーの枯渇はいよいよ差し迫った問題となってきた。

このような時代に、「環境配慮」といった言葉を掲げた建築も現れたが、それらの多くは、自然の利用によってエネルギー消費と CO₂ 排出を抑えることを目指し、人工環境を創造するための補佐的役割の「自然の利用」になっている。21 世紀以降、「自然と共存」していくためには、自らが自然の一部であることを思い出し積極的に仲

良くなるようにする姿勢がなければ難しい。

今回の技術部門設計競技では、特に光に着目し「自然光と仲良く」「自然光と遊ぶ」といった姿勢が顕著に現れる建築システムの提案を募集する。対象となる建築システムは、オフィスビル・高齢者施設などの建築物単体にとどまらず、道路や都市施設などを含めた地域再開発も含まれる。最たる人工物である建築システムが地球上の「自然」の一部となりシステムを利用する生命が自然と一体になることによって、これまで征服したと思っていた自然によって実は生かされていたのだということを実感できるような提案が望まれる。既成の「窓」という概念にとらわれず、自然光のポテンシャルを最大限に活かした建築システムを展開して欲しい。

.....
<主催> 日本建築学会 環境工学委員会

応募要領

1. 課題

自然光を楽しむ近未来建築

2. 応募資格

下記のいずれかとする。なお同一の個人または代表者名で複数の応募をすることはできない。

本会または本会の海外協力協定締結団体*の会員（準会員を含む）個人

本会または本会の海外協力協定締結団体*の会員のみで構成するグループ

*協力協定締結団体：大韓建築学会、中国建築学会、中華民国（台湾）建築学会、American Society of Civil Engineering(ASCE)、Association of Collegiate School of Architecture (ACSA)

3. 条件

1) 自然光の特徴を十分活かしたものであるとともに、近未来の地球環境に対する負荷を低減する提案がなされていること。

2) 建築物や都市空間といったハードウェアとしての提案や、建築・都市・環境の利用に関するプログラムやシステムといったソフトウェアとしての提案のどちらでもよい。提案は、材料やシステムから都市にいたるまでスケールの大きさなどにこだわる必要はない。

3) 現在の技術では実現が困難でも、将来、要素技術の開発・発展によって実現可能となるような提案でも良い。

4. 審査員

委員長：井上容子（奈良女子大学）：光環境小委員会

審査員：井上隆（東京理科大学）：熱環境小委員会

岩田利枝（東海大学）：光環境小委員会

隈研吾（隈研吾建築都市設計事務所）：建築家

古賀靖子（九州大学）：光環境小委員会

佐々木政子（東海大学）：光環境科学者

垂水弘夫（金沢工業大学）：都市環境・都市設備小委員会

中村芳樹（東京工業大学）：光環境小委員会

羽山広文（北海道大学）：建築設備小委員会

面出薫（武蔵野美術大学）：照明デザイナー

5. 提出物（使用する言語は、日本語または英語とする）

1) 応募申込書

下記内容を A4 版 1 枚に明記すること。書式は自由

提案名(提案内容を的確に表す簡潔なタイトル)

代表者および共同制作者全員の氏名

上記中の事務連絡担当者の氏名・ふりがな・会員番号・所属・電話・FAX・E-mail アドレス

2) 以下の内容を A1 判・縦使い(縦 841mm x 横 594mm 厳守) 1 枚に収めるものとする。紙質は自由、ただし、パネル・ボードは用いないこと。

提案内容を的確に表す簡潔なタイトルを工夫すること。

提案内容を明確に示すこと。図面の種類は特に指定しないが、

提案内容を説明するのに十分なものとする。

建築・都市と技術(ソフト、ハード)の関係を明記すること。

注意

提出図面には、応募者の氏名・所属組織のほか応募者が特定される情報を書かないこと。

6. 提出期限

2005 年 5 月 31 日(火)(当日の受付締め切りは 17:00 まで。郵送の場合は当日消印有効。ただし宅配便は不可)

7. 審査方法

審査は二段階で行う。

1) 一次審査会(非公開)

入選候補作品を選定する。

2) 二次審査会(公開)

日時：2005 年 6 月 17 日(金) 13:30 ~

場所：建築会館ホール

候補者による 10 分間のプレゼンテーションと 10 分間の質疑

応答を実施し、その後審議を行い各賞および佳作を決定する。

なお代理によるプレゼンテーションは認めない。

プレゼンテーションの方法は特に制限は設けない。ただし、こちらで準備するものは PC プロジェクター(ビデオも可)のみである。

二次審査にあたって、一次審査の提出内容を改良しても良いが、一次審査と異なる提案は認めない。

8. 表彰

最優秀賞 1 点：賞状および副賞 50 万円

優秀賞 3 点以内：賞状および副賞 10 万円

佳作 若干：賞状および副賞 5 万円

ただし、応募状況によって、最優秀賞に該当作品なしとする場合がある。

9. 審査結果の公表等

入選作品は 2005 年 9 月の日本建築学会大会環境工学部門パネルディスカッションの席上で表彰する。入選作品の提案図面は、講評とともに日本建築学会大会および建築会館で展示し、審査経過とともに『建築雑誌』および本会ホームページに掲載する予定。

10. その他

応募図面および関係書類は返却しない。

1) 応募のための参考資料を 2005 年 2 月 1 日以降、建築学会ホームページに掲載する。「参考資料」なので、特に細部にこだわる必要はないが、提案内容を損なわない範囲で、ある程度考慮されることが望ましい。

2) 入選作品の著作権・特許権は応募者に帰属するが『建築雑誌』・本会ホームページへの掲載や日本建築学会編の出版物に用いる場合は、無償でその使用を認めることとする。日本建築学会編 2006 年出版予定の『昼光利用ハンドブック』に一部を掲載する予定である。後日、作品に関する電子データ等を提出願うことでもあるので、ご協力願う。

3) 課題に関する質問は 2005 年 3 月 1 日まで、問い合わせ先で受け付ける。E-mail が好ましい。回答は 2005 年 3 月 15 日以降、質問者名を伏せたうえ、本会のホームページで行う。

11. 提出先・問い合わせ先

(社)日本建築学会事務局「技術部門設計競技」係

〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20

TEL03-3456-2057 FAX03-3456-2058 Email:ono@aij.or.jp